

第4回

中央大学理工学部生命科学科

福井 彰雅 先生

アフリカツメガエル・ゲノムプロジェクト
：異質四倍体ゲノムの解析

アフリカツメガエル (*Xenopus laevis*) は世界で広く利用されているモデル生物でありながら、そのゲノムの大きさと複雑さからゲノムプロジェクトが遅れていた。しかし、日本で創出された近交系 (J系統) を用いることで、昨年、世界46機関からなる研究チームがこのカエルのゲノム解読に成功した。解析結果より、約1,800万年前の祖先種の交雑による異質四倍体化が起きていたこと、また、2つのサブゲノムが明確に区別され、これらは独自の進化を経ていることが明らかとなった。これらの解説と共にアフリカツメガエルにユニークなクラスター遺伝子の例もあげ、アフリカツメガエルのゲノム進化について紹介したい。



9月12日(火) 16:30-17:30
琉球大学
亜熱帯島嶼科学拠点研究棟
3F会議室

※ ご参加・聴講は自由です
(事前申し込み不要)

皆様のご来聴を歓迎いたします。

お問い合わせ先：

熱帯生物圏研究センター 矢口甫
hjiroo@gmail.com

